



福岡の山で見られる生きもの



夏鳥として福岡市の森林にやってきますが、とても珍しいです。体の色がカラフルな小鳥で、「森の妖精」と呼ばれています。地上で昆虫やミミズなどを食べます。

ヤイロチョウ
大きさ:約18cm ヤイロチョウ科



一年を通して山地の林内でよくみられる緑色のハトです。樹上で木の実や新芽を食べ、「アオ、アオ」と尺八のような声で鳴きます。

アオバト
大きさ:約33cm ハト科



一年を通して山地の林内でよくみられます。中型のキツツキで、ハトほどの大きさです。木の幹をつつきながら、クモ類や昆虫類を食べます。

アオゲラ
大きさ:約29cm キツツキ科



溪流付近の森林で見られ、繁殖期の3~4月ごろ岩の下などでグックグック、ゴックゴックと鳴きます。オタマジャクシはほとんどエサを食べずに成長します。

タゴガエル
大きさ:約3~5cm アカガエル科



2019年に新種として名付けられました。夜行性で、成体のみかけることはほとんどありません。繁殖期の3~4月ごろ、溪流の岩の裏などに産卵します。

チクブチサンショウウオ
大きさ:約15cm サンショウウオ科



渡りをする大型のチョウで、夏になると福岡市では標高の高い山で多くみられます。秋になると標高の低い場所でもみられます。毒があるチョウとしても有名です。

アサギマダラ
大きさ:約5.8cm タテハチョウ科



山地のみみられるバッタです。ハネが退化しているため、飛ぶことができません。青振山などの山地では多くみることが出来ます。

オナガフキバッタ
大きさ:約2~3cm バッタ科



赤いアシが特徴的なクワガタムシです。福岡県では高い山にのみすんでいて、福岡市では青振山で見られます。夜間に活動し、成虫は樹液に集まります。

アカアシクワガタ
大きさ:約2.5~6cm クワガタムシ科



青振山を代表する昆虫です。ブナの原生林に生息します。幼虫がブナを食べるので、成虫もブナの周囲で見られます。夜間に活動します。

ヨコヤマヒゲナガカミキリ
大きさ:約3cm カミキリムシ科



九州では山地に生える落葉広葉樹で、福岡市では青振山系の尾根沿いにのみ生育しています。青振山ではブナの巨木をみることができます。

ブナ
大きさ:約30m ブナ科



九州にのみ生育する種で福岡市では青振山系の山々で見られます。茎が短く、背の低い植物です。5月ごろに紫色の花を咲かせます。

ウンゼンカンアオイ
大きさ:約5~9cm ウマノスズクサ科



山地の日陰で湿った土や岩の上などに生えているコケの仲間です。春に名前の由来でもある球形の胞子体をつけます。

タマゴケ
大きさ:約4~5cm タマゴケ科

貴重 日本や福岡県で数が少ないとされているものや、福岡市での数が少ないといわれているもの (参考:環境省レッドリスト、福岡県レッドデータブック、福岡市環境配慮指針など)

どんな服装が いいの?

観察のポイント

あると便利なもの

今日はどこに生きものを探に行こうかな

帽子
長い時間、太陽のもとにいると「熱中症」になることもあるよ。帽子は頭を守ってくれるんだ。

リュックサック
荷物はリュックに入れて、いつでも両手が使えるようにしよう。

長そで・長ズボン
ケガや虫さされ、木の枝などから体を守ってくれるんだ。夏でも長そで・長ズボンを着よう。

くつ
サンダルだと危ないよ。はきなれたスニーカーをはこう。



注意すること

- 大人といっしょに出かけましょう
- 熱中症を予防しましょう
- 毒をもった虫(スズメバチなど)に気をつけましょう
- 危険な場所には近づかないようにしましょう

みんなで守ろう!生物多様性

福岡市は博多湾と周囲の山々に囲まれた自然豊かな都市です。海の魚や山の動物、公園で見られる昆虫や小鳥、道端に生えている花や草など、さまざまな生きものが直接的・間接的に支えあって生きています。私たち人間を含め、たくさんの生きものが存在すること、お互いに支えあって生きていることを「生物多様性」といいます。

しかし、今、「生物多様性」が開発や田畑・林の手入れ不足、人間により持ち込まれたもの(外来種)、気候変動など、主に人間活動の影響により失われつつあります。

開発

気候変動

外来種

私たちの行動で生物多様性を守ることができるように、福岡市では「生物多様性ふくおか戦略」を定めています。

福岡市 生物多様性